

神奈川県立総合療育相談センター 関係機関ヒアリング結果

【関係機関】

- ・ 平塚市民病院
- ・ 神奈川県肢体不自由児者父母の会連盟
- ・ かながわ県医療的ケア児者家族会
- ・ 藤沢市（子ども家庭課）
- ・ 小田原市
（障がい福祉課・子ども青少年支援課）
- ・ 三浦市（福祉課・こども課）
- ・ 秦野市（障害福祉課）
- ・ 神奈川県教育局特別支援教育課

関係機関ヒアリングにおける主な御意見等

障害者相談所関係

NO	意見等の内容	関係機関
1	補装具や更生医療給付に係る判定について、 <u>判定に係る期間が長い</u> と感じる。また、どのように判定されているのかが不明瞭であるため、プロセスが分かるとうい。	秦野市
2	制度によって複雑なものもあり、事務担当者のマニュアルを充実させることで、市町村における事務処理の円滑化が図れる。	小田原市
3	更生医療の給付決定に係る判定について、申請者が医療機関で作成してもらう <u>医師の意見書は、専門的で市町村職員には理解が難しい内容が多くあるが</u> 、内容に不備等がある場合、市町村を経由して申請者及び医療機関に補正等を依頼することになっており、市町村にとって大きな負担であることに加え、誤伝達の恐れもある。	三浦市
4	巡回ブロック相談について、高頻度で実施されており地域ニーズに対応していると感じる。	小田原市
5	巡回相談は回数が少なく、 <u>地域のニーズに応えきれていない</u> 。	三浦市
6	療養介護事業所に関する入所調整会議について、制度としてはありがたいが、18歳以上で重症心身障害者認定を受けた場合はエントリーできないため、制度のはざままで困っている事例があり、課題と認識している。	小田原市
7	18歳以上での療育手帳の交付には、なぜ市町村のケースワーカーの同席が必要になるのか疑問である。	小田原市
8	<u>障害者手帳の交付について、申請から交付までに時間がかかる</u> 。手続きとして時間がかかることは理解するが、県民目線で考えるならば、スピーディーな交付が求められる。	秦野市
9	18歳以上での療育手帳の再判定時における資料について、成育歴などの情報を共有できるスキームがあれば、市町村担当者の負担が大きく軽減される。	三浦市
10	身体障害者手帳については、 <u>更新が2か月前に来る</u> 。2か月前だと主治医の予約が埋まってしまうので、 <u>もっと前に案内するように改善してはどうか</u> 。	医ケア児者家族会

療育支援

NO	意見等の内容	関係機関
1	<u>巡回リハビリテーションについて、ニーズが高い。藤沢市は遠くて行きづらいという声もあり、近くに来てもらえるのはとてもありがたい。</u>	秦野市
2	巡回リハビリテーションには、支援者（訪問看護師）等も参加しており、気になる点を PT や医師が的確に指導してくれるので、関係機関が参加できることでその後の支援にもうまくつながると感じる。	秦野市
3	訪問支援については、巡回リハビリテーションに参加できない者をフォローできており、重要な役割と感じている。	秦野市
4	藤沢市から距離があるため、巡回リハビリテーションの実施時間が短く、 <u>申込に応じられないケースが出ている</u> 。特に、地域に <u>ST が不足</u> しており申込みが多い。もう少し時間を長くともってほしい。	三浦市
5	SRC はどうしても距離があるので、来所はハードルが高い。もう少し地域をサポートしてほしい。	三浦市
6	現在、巡回リハビリテーションでの検査をその後のサービスにつなげられていないが、放課後等デイサービス等の障害児通所支援の支給決定の根拠に結び付けられると、市としても保護者にとってもよいと感じている。	三浦市
7	未就学児の療育については自治体でも相応に充実できているが、学齢期以上への対応ができておらず、 <u>SRC の巡回リハビリテーションが重要な役割を果たしている</u> 。	小田原市
8	巡回リハビリテーションについては、 <u>回数を増やしてほしい</u> 。実施回数が増えれば増えた分、ニーズがある	小田原市
9	地域の療育の中核的な役割を担うべき児童発達支援センターが個別支援に偏っており、役割を強化していきたいと考えている。SRC には、地域支援とは何かといったところを助言して欲しい。	小田原市
10	<u>養護学校や療育機関で対応を苦慮している児童に関して、施設や自治体からの相談を受けてもらえるとうありがたい。</u>	小田原市
11	児童発達支援 C で 3 歳児からのお子さんを受入れているため、3 歳未満のお子さんを SRC で対応いただいているが、医療的ケアが必要な場合など、児童発達支援 C でも受入れが難しいお子さんについては、SRC で継続的な支援が必要。	藤沢市
12	医療的ケア児の施策については保育所、学校及び特別支援学校等につながっていくと思うが、そこでは補装具の作成なども発生してくることなどを考えると、SRC が関わっている方が円滑に進むのではないか。そうした意味で、 <u>保育所や特別支援学校への機関支援を充実してほしい</u> 。	秦野市

13	集団（グループ）療育を利用し、他の子との遊びや家ではできない遊びを体験させることができた。また、母親同士の交流もあり、 <u>家族支援として重要</u> と感じる。孤独を感じている中で貴重な支援だが、最近グループ療育が減っているという声があり、継続してほしい。	医ケア児者家族会
14	1月に1回通うリハビリはリハビリではない。 <u>SRCが核になって各圏域にどう地域に拠点を作るか</u> ではないか。	肢体不自由児者父母の会連合会
15	開設当初は福祉と医療の連携がうまくいっているように感じていた。昔は賑やかだったがしばらくしたら利用者が少なくなり、地域巡回をするという話があったが、地域支援も十分ではないのではないか。	肢体不自由児者父母の会連合会

診療所（外来診療）

NO	意見等の内容	関係機関
1	早期療育を受けていたが、4歳で児童発達支援センターに入り卒業。小学生になるとSRCのPT,STを利用することができることは知らなかった。 <u>利用者への情報提供が不十分</u> のように感じる。情報を提供する対象を限定するのであれば、その基準を示す必要があるのではないか。	医ケア児者家族会
2	今回のアンケートがあって初めて <u>専門外来などを知った</u> 。	三浦市
3	市民の利用はないと考えている。立地によって利用できない結果となっていると感じる。特に <u>児童精神科や心理検査は地域資源が乏しい</u> ため、近くにあることを望むが、藤沢でも受けられるのであれば紹介できるようにしたい。	小田原市
4	重症心身障害児の場合、病院から地域に戻る際にSRCにつながり、SRCから児童発達支援Cに繋がっている。特に重症心身障害児の相談機関として、 <u>医療から福祉につながる際の重要な役割を担っている</u> 。	藤沢市
5	重症心身障害児の支援について、湘南東部圏域に施設がなく不足していることから、そのカバーをSRCに期待している。	藤沢市
6	発達障害のある児童が受診できる児童精神科の医療機関が少なく、その役割は大きい。SRC以外には市外の医療機関になるが、予約も取れない状況と聞いており、サービスを受けるに当たって必要となる診断書が取れないことが課題となっている。	藤沢市
7	教育現場ではSRCを頼りにしているという声を聞いている。特別支援学校に限らず、通常学級に通っている児童も支援を受けており、教育現場だけでは難しい部分を担っている。	藤沢市
8	SRCは評価をして、地域でのリハビリテーションに繋げる役割になるのではないか。	平塚市民病院

9	特別支援学校では自立活動維持相談で SRC から医療スタッフの派遣を受けているが、特別支援学校の専門職だけではなく、 <u>担任、保護者にとっても第三者的な立場で助言を受けることができる貴重な機会となっている。</u>	特別支援教育課
---	---	---------

診療所（入院診療・医療型短期入所）

NO	意見等の内容	関係機関
1	3 年前に医師の退職を理由に利用を制限されて以降、様々な理由を基に利用を断られている。元来、体調が悪い時には利用できないサービスであり、これまで急変することなどなかった。 <u>民間で受けてもらえるところが少ないからこそ、県立で何とかして欲しい。</u>	肢体不自由児者父母の会連合会
2	湘南東部には重症心身障害児施設が無いので、遠方の施設を利用している方もいる。横浜療育医療 C 港南では、外来やリハビリは受けてもらえるが、入院や短期入所は横浜市民しか受けてもらえないので、 <u>県立施設を頼らざるを得ないのに、見放されたと感じた。</u>	肢体不自由児者父母の会連合会
3	県は当事者目線の障害福祉推進条例を制定したが、急変時の安全が確保できないから受け入れられないというのは、当事者目線ではなく支援者目線ではないか。県立施設として、当事者目線の障害福祉を実践するべきではないか。	肢体不自由児者父母の会連合会
4	医師が辞めたから短期入所を受けられなくなったにも関わらず、医師が採用されても再開されなかった、単純な疑問である。医療型短期入所は <u>医師が常勤でなければならないことはなく、看護師がいれば受入れできるはず。</u>	肢体不自由児者父母の会連合会
5	病院での短期入所には保育の機能はない。レスパイトでの短期入所の場合、利用者は患者ではないのでベッドに置き去りにされることに対する抵抗感がある。 <u>医療型短期入所は医療ではなく福祉である。</u>	肢体不自由児者父母の会連合会
6	病院の空床利用での医療型短期入所を増やしていこうとするのであれば、短期入所に関する方針をもって指導（指定）して欲しい。小児科病棟であれば、保育士もいるしリハビリもできるが、成人病棟の場合にはそうはならない。1 日の生活を病人のように過ごすことにならないようにしてほしい。	肢体不自由児者父母の会連合会
7	二人目の出産時に急遽預け先の当てがなくなり、途方に暮れて相談した SRC で、児童相談所の緊急一時保護として預かってもらった。 <u>医療的ケア児者の家族にとって重要なセーフティネットであり、県立施設としての役割と感</u> じる。	医療的ケア児者家族会
8	<u>常勤の小児科医が夜勤の時ではないと預けられないのは本当に困る。</u>	医療的ケア児者家

		族会
9	こども医療 C や小さき花の園では日中のプログラムが組まれているが、SRC にはそうしたプログラムが無く、 <u>他の医療機関でのショートステイに近い</u> と感じる。	医療的ケア児者家族会
10	医療型短期入所については、遠方の施設を利用している方もおり、SRC の予約が取れば、利用ニーズはある。 <u>地域資源が不足</u> しており、複数の施設に登録して、レスパイトを確保している方もいる状況。	小田原市
11	利用できる施設が限られており、近隣の施設でも利用制限しているところもあることから、予約がとれない、レスパイトの利用ができないという切実な声を聞いている。 利用できない方は、市内の医療機関で、レスパイト目的でのメディカルショートステイを受けているという声もある。	藤沢市
12	<u>福祉型短期入所</u> で対応できる方もいるが、肢体不自由で受入れてもらえるところは少ない。	藤沢市
13	遠方の施設を利用するのは負担が大きく、身近なところに短期入所があった方がよい。 <u>SRC でというよりも、身近なところでレスパイト</u> ができないということが課題。	藤沢市
14	新規開設ではなく、小さき花の園など既に医療型短期入所を実施している施設において、 <u>短期入所枠を拡大</u> するようなことは考えられないか。	藤沢市
15	<u>横浜市のメディカルショートステイのような制度</u> でコスト面の補填があれば、将来的には少子化により空床が増えることが想定される中、受入れを検討できる医療機関はあるのではないか。	平塚市民病院

全般・その他

NO	意見等の内容	関係機関
1	<u>車が無いとアクセスが悪い</u> 。せめて藤沢駅に送迎を出してほしい。	医療的ケア児者家族会
2	小児科医の確保はどこの病院でも困難な状況であり、簡単ではない。	平塚市民病院
3	<u>診断書手数料等の額については、改定すればよい</u> 。	肢体不自由児者父母の会連合会
4	政令市にはそれぞれ療育センターがあるが政令市以外の地域は SRC しかない。県所管域をどのようにカバーしようとしているのか。	肢体不自由児者父母の会連合会

5	<u>SRC での診察が有償で巡回リハビリテーションが無償なのはおかしい。SRC に来られない方々への巡回リハビリテーションではないのか。</u>	肢体不自由児者父母の会連合会
6	市町村の <u>新任職員向け</u> の研修は早々に実施していただきたい。前任からの引継ぎだけではなかなか難しく、研修を受けずに誤った事務処理をするケースがある。	三浦市
7	SRC を市民に案内しても、どこにあるのか聞かれることが多く、パンフレットがあるとよい。	三浦市
8	<u>立地を理由に地域のニーズを受けられないという点を改善してほしい。</u> 専門外来、療育支援など、市民が利用できる機会を確保できるとよい。	小田原市
9	SRC の専門職による <u>教員向け</u> の研修があるとありがたい。	特別支援教育課